

投稿規定	404
------	-----

編集後記	406
------	-----

《本号の表紙絵》

池田家唇舌之図

(23.7×16.5cm, 北里大学東洋医学総合研究所蔵)

本図は、天保10年(1839)3月、秋月藩医緒方文友(2代目緒方春朔)が、京の痘科医佐井聞庵に入門した時に制作した立体的な舌図である。我が国では、立体的な人体模型は木骨が有名であるが、舌の立体図は珍らしい。この「唇舌帖」は、十八唇之図訣、八舌之図、陽舌十三之図、陰舌十三之図、五死舌之図があり、唇舌診図をもとに、天然痘の段階を診断し、投薬、治療を行った。本図は、一枚の裏、表三図ずつ唇舌図が描かれており、厚紙を重さねて中間に和紙をはさみ、唇、舌を一図ごとに切り取り、和紙にはりつけている。さらに白い絵具を重層的に積み重さねて、POXや舌苔を立体的に作成し着色している。このため、立体的に非常に美しい唇舌図として仕上がっている。本図は、初代緒方春朔の5代目にあたる緒方駒雄から明治44年(1911)、国立伝染病研究所に寄贈されている。さらにこの「唇舌帖」は、ドレスデンで開催されたドイツ万国衛生博覧会に出品されたという記録がある。

「唇舌帖」は、佐井聞庵由来であるが、もとをただせば池田端仙由来のもので、池田流の痘疹治療がどのようなものであるかを探る意味でも興味深い資料である。

(西巻 明彦)